

令和5年秋期 六浦地区推進連絡会要旨

1 日時

令和5年11月15日(水) 18:30~20:15

2 場所

瀬戸町内会館

3 参加者

(地域側) 自治会等地域団体関係	27名
(支援チーム、その他行政側)	
区役所	11名
区社会福祉協議会、地域ケアプラザ	10名
計	48名

4 内容

- (1) 開会のあいさつ (六浦地区社会福祉協議会・地区連合町内会 会長)
- (2) 区長のあいさつ
- (3) 出席者紹介
- (4) 第4期金沢区地域福祉保健計画地区別計画の振り返り
(六浦地区社会福祉協議会 事務局長)
- (5) グループ討議 (A~F グループ)

テーマ:「自治会・町内会活動の担い手不足をどう解決するか」

サブテーマ①大学や学校との連携について

②お祭りへの生徒・学生の受け入れ

③防災の取組

④すでに実施している六浦地区の活動の中で工夫できそうなこと

上記のサブテーマの中から一つ選び、そのことを通じて担い手不足の解決策を考えてみてください。

話し合う事柄①自分の地域の現状 (課題)

②その原因

③解決策 (取り組みたいこと)

- (6) 討議内容の発表と意見交換 (要旨)

【お祭りへの生徒・学生の受け入れ】

- ・若者が楽しめるような工夫をする。くじ引きや景品等。こどもだけでなく、その親も来てくれて、楽しめる内容。40~50歳代に直接の声かけをしていく。学校の広報誌を通じて、イベントカレンダーを周知する。地域活動に関連する休暇 (ボランティア休暇等が) が制度化していくと良い。

【大学や学校との連携】

- ・「ちょっとした参加から地域活動の担い手へ」

夏祭りへの参加も良いが、祭りの企画段階から学生の力を取り入れたらよいのではないか。伝統をなくすことなく、若い人の企画をいかしてはどうか。担い手問題では、役員は敷居が高くて出来ないという意見があるので、障害になるものを取り払って、簡単にお手伝い出来ることを考えてあげる。それがゆくゆくは若い方へのバトンタッチになるのではないか。難しいことではあるが、コツコツとやっていかないと担い手がいなくなってしまうので、ちょっとでも参加できる町内役員を考えていく。

- ・横浜市大の学生を受け入れて祭りをやっている。コロナのブランクがあって、学生に情報が伝わっていない。本日の話合いでボランティア支援室を知ったので、支援室を通して声がけしていきたい。情報発信は、現状は回覧板がメインだがホームページの作成もやっていきたい。祭り等を継続できる体制を作って、学生が企画から参加できるようにすれば参加しやすいのではないか。
- ・現状の課題は、町内会活動を動かす人が少なく、跡継ぎに苦勞している。なぜ町内会活動が必要なのかを理解してもらうことも必要。広報を通して、町内会活動を知ってもらう。広報誌の発行について大学生に協力してもらえると良い。グループの中に関東学院大学の方がいて、依頼があれば学生に繋いでくれることが分かったので、町内会イベントの際に声をかけて参加してもらいたい。

【すでに実施している六浦地区の活動】

- ・地域の現状は町内会によって異なる。世帯数も構成員も異なる。役員が特定してしまう。1度役員をやるとやめられなくなってしまう。高齢化が進み、担い手や後継者が育たない。責任や負担を分担する。すべて役員がやるのではなく、輪番制でやるようにしないと回らない。
- ・声かけや出産祝い等をきっかけとして、気持ちを育て、ちょっとしたことから賛同してもらえるようにする。中学生は地元の人なので、気持ちを育てていくのが解決方法なのではないか。自分の町内で関わる人を掘り起こしていくことが必要。

【防災の取組】

- ・防災訓練等への若い世代の参加が少ない。町内会の役員になる人がいない。回覧板に関心をもたない、掲示板にも関心がない。学校と連携して、学校の広報に地域イベントを掲載し、親世代に届ける。親子が楽しめるような雰囲気にする。SNSの活用も検討する。回覧板も引き続き活用する。

(7) 閉会のあいさつ（六浦地区社会福祉協議会 副会長）